

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2671500037
法人名	社会福祉法人 未生会
事業所名	グループホーム ちくりんえん
所在地	〒京都府南丹市八木町諸畑後町14番地 (電話) 0771-42-6900

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年10月7日	評価確定日	平成20年11月17日

【情報提供票より】(平成 20 年 9 月 1 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 20 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 4 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 6.85 人	

(2)建物概要

建物構造	木造平家ストレート葺造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,000 円	その他の経費(月額)	22,200 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4)利用者の概要(9 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 75 歳	最低	71 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	さとう医院・村井歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

南丹市にある豊かな自然に囲まれ、開放感のある当該ホームは母体である軽費老人ホームと昨年開設された認知症デイサービスに隣接し、周りの木々や草花からいつも季節感を感じることができます。ホームではデジタル化したサービスでは無く、アナログ的な支援をしたいとの思いから、より多くの職員を配置することで、個別ケアを実現されています。その一環として月に1、2度、利用者と職員が1対1で一日を自由に過ごす日を設けられています。地域との関係も良好で管理者は協力を求めるばかりでなく行政と連携し、情報の提供として認知症の相談窓口である「シルバー110番」の実施や地域に向けた定期的な認知症の勉強会を開催、ネットワーク作りなどホームの利用者だけでなく、家族や地域の安心を支え、地域に根ざしたホームとなっています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の改善課題でもあった自己評価は今年度は全員で取り組まれました。また地域に向けた理念は会議等で現在検討されています。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価票はリーダーが作成したものを他の職員に回覧し修正を行い、管理者が確認して完成されました。職員は、評価の意義を理解し、可能なことから改善出来るように取り組まれています。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に一度、家族、民生委員、地域住民、市担当者、地域包括センター職員、ホーム職員が参加し開催されています。会議ではホームの現状報告のほか、地域の方を対象とした認知症勉強会の開催や、毎年開催されているコンサートの企画・実行、シルバー110番の活動内容についての対応を一緒に考える等、地域とホームが一体となる取り組みがなされています。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年に1、2回運営推進会議や行事を兼ねて家族会を開催したり、家族に向けたアンケート調査を行ない率直な意見を聞く機会を設けられています。また訪問時や電話でも意見を聞くようにしており、得られた意見や要望については即時に対応されています。今回の家族会にはより多くの参加を期待し、利用者直筆の招待状を出す予定です。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事に参加したり、地域や他事業所の人々をホームに招いて夏祭り等を開催し交流を図っています。地域の人々を対象に「シルバー110番」を設立され、地域推進委員の養成を行い、地域の安心や安全に貢献されています。またボランティアや小学生の来訪は利用者の楽しみの一つとなっています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の思いを受けとめたホーム独自の理念を作成し、利用者が書かれた理念を、家族や外部者からも見えやすいように、リビングと事務所に掲示しています。理念の中に地域密着型サービスとしての内容の記載がなされていません。	○	現在地域密着型サービスとしての内容を盛り込むべく、検討中とのことですが、職員間で話し合わせ、地域に根ざしている当該ホームにふさわしい理念の作成が期待されます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常生活でのケアで大切なことをわかりやすい言葉にしたものを理念としており、職員は日々の取組みの中でいつも理念を心に受けとめ、実践に活かされています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に参加したり、地域や他事業所の人々をホームに招いて夏祭り等を開催し交流を図っています。地域の人々を対象に「シルバー110番」を設立され、地域推進委員の養成を行い、地域の安心や安全に貢献されています。またボランティアや小学生の来訪は利用者の楽しみの一つとなっています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の改善課題でもある自己評価を全員で取り組むために、今回の自己評価票はリーダーが下書きしたものを他の職員に回覧し修正を行い、管理者が確認して作成されました。また地域に向けた理念は現在検討されています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一度、家族、民生委員、地域住民、市担当者、地域包括センター職員、ホーム職員が参加し開催されています。会議ではホームの現状報告のほか、地域の方を対象とした認知症勉強会の開催や、毎年開催されているコンサートの企画・実行、シルバー110番の活動内容についての対応を一緒に考える等、地域とホームが一体となる取り組みがなされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や社会福祉協議会に働きかけ、ホーム主催で地域の認知症勉強会を定期的で開催されています。また南丹市や警察署に防犯や捜索について協議するなど、ホームと行政、地域とのネットワークが構築されています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりや健康状態については、家族がホーム来られた際や電話でお伝えしており、定期的に写真と職員や利用者直筆の手紙、ホーム新聞を送付しています。次回の家族会にはより多くの参加を期待し、利用者直筆の招待状を出す予定です。金銭管理については毎月領収書を添付し報告されています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1、2回運営推進会議や行事を兼ねて家族会を開催したり、家族に向けたアンケート調査を行ない率直な意見を聞く機会を設けられています。また訪問時や電話でも意見を聞くようにしており、得られた意見や要望については即時に対応されています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の意見や提案を聞く機会を設け、可能な限り支援されています。また職員の離職の際には利用者のダメージを配慮し、個々に対応されています。新しい職員は利用者きちんと挨拶し、ケース記録をよく読んで把握してからケアにあたるように心掛けています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の充実を図るために、積極的に研修に参加されています。他事業所との交換研修や地域との勉強会の機会も多く設けられ、管理者が講師として多くの研修を企画されています。また内部で認知症介護研究チーム(MACK)を結成し、職員のスキルアップが図られています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者がグループホーム連絡会の事務局を務めておられ、自ら企画し関係事業所で定期的に困難事例、センター方式、認知症等の勉強会を開催されています。また他事業所との職員交換研修や見学、利用者同士の交流も行なわれています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームでは入居希望者で不安がある場合の体験入居や見学の際、他の利用者や職員とお茶や食事を共にしてもらい、馴染んでもらう工夫をされています。また利用前に本人にとってホーム以外のさまざまなサービス利用の可能性について、一緒に考え、利用者や家族の立場に立ってアドバイスされています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームでは担当制を採用して、利用者の個別ケアにこだわっており、一緒に過ごす中で、教わることや助けもらうことが日常的多く見られます。また利用者同士の助け合いもあり、人と人との関係を大切にされています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用した独自のアセスメントで情報を収集し、利用者の思いを把握されています。担当制での個別ケアを重視することで、利用者のサインを見逃すことなく、ケアに活かすように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式の考えを基本としており、利用者の思いを重視し、また、家族の意見や職員からの情報を基に、利用者の視点に立った内容で「私が施設から提供するサービス内容」という形で介護計画が作成されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度、全員参加のケース会議で話し合い見直しが行われています。会議前に家族や担当職員に情報収集を行い、会議後は議事録を回覧されています。状態の変化が見られる利用者にはその都度見直されています。介護計画は毎月のモニタリングで確認されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の希望による帰宅の際や理美容の送迎、葬式をホームで行なうなど、柔軟な支援がされています。また利用者と職員が1対1で自由に過ごす日を設け、利用者と職員がリフレッシュできる機会を設けられています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際、利用者・家族の希望を聞いてかかりつけ医を決定されています。ホームの主治医により、週に一度往診があり、24時間連絡が可能で緊急時には駆けつけてくれます。また隣設の法人看護師の協力のもと、利用者が安心して暮らせる支援をされています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、利用者・家族にホームの方針を伝え、また入居後も何度も話し合い、それぞれの利用者に応じた支援をされています。ホームではターミナルの経験もあり、介護から看護に変わる際に家族に決定してもらっています。今後は必要時の希望に応じて個別に訪問看護を利用し、対応したいと考えられています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する言葉使いは、職員同士で常に注意合っています。職員は利用者の呼ばれ方にこだわりたいと考えられており、利用者や家族の希望する呼び名で呼ばれています。また個人ファイルは事務所の書棚に鍵をかけて保管されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでは個々のペースを大切にされており、役割や外出も職員が促すのではなく、利用者本位に自由な一日が送れるよう支援されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当日の担当者が利用者の希望を聞き献立を決め、買い物に出かけたり、調理、配膳、片付けと一緒にされています。また利用者が育てた野菜が隣接地の畑で収穫され、食材に使われています。職員と利用者は会話を楽しみながら、同じものを食されています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日はあらかじめ決められていますが、希望によりいつでも入浴可能で、2日に一度は入浴してもらえるよう支援されています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は家事、買い物、草刈等の役割を担い張りのある生活をされています。ホームでは利用者毎のスペシャルデーと称する職員と1対1で好きなことをして過ごす日があり、祇園祭に行ったり、デパートへ買い物に行ったり、お墓参りや温泉に行く等様々な楽しみ事を個別支援されており、また、楽しかった一日の感想をノートに残されています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別を重視した日々の散歩や二日に一度の食材の買い物兼ねたドライブ、通院帰りの喫茶店、畑仕事等、利用者の希望に添って支援されています。また天気の良い日は玄関先の広場で皆でお茶を頂くこともあります。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見守り体制は万全でも、外出願望の強い利用者の安全を守るため、一時的に施錠されています。施錠については全家族に理解を求め、了解を得られています。開放に向けて職員会議等で常に話し合われています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームでは年に一度消防署の協力のもと、夜間を想定して法人合同で避難訓練を開催され、救急救命の講習も受けられています。独自でも地域の協力を得て、夜間の捜索訓練をされており、何かあれば互いに駆けつける、地域や近隣の施設との連携体制が構築されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養や水分摂取に配慮が必要な利用者は、食事摂取表や日誌に記録を残され、利用者の状態に応じて刻みやおかゆ等で対応されています。また利用者の適切な食事提供を検討する食事係を設けられ、給食委員会の開催や法人栄養士に定期的な献立のチェックを依頼し、栄養管理されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りの花や中庭には芝生が植えられ、季節を感じることができます。またホームの愛犬や水槽の魚が利用者の癒しとなっています。リビングには利用者が共同で作成された季節の貼り絵が飾られ、美化係が整理や清掃等にも気を配り、利用者が過ごしやすい共用空間づくりがなされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は個々に違う花柄の壁紙を貼り、明るい感じになっています。利用者は畳風の敷物を敷き、茶卓を置かれたり、自宅から仏壇、ベッド、机、家具等、馴染みのものを持参され、居心地よく過ごされています。また暖簾をかけ自室をわかりやすくする工夫もされています。		